

遠野市歴史文化基本構想

平成 31 年 3 月
岩手県遠野市・遠野市教育委員会

遠野市歴史文化基本構想

平成 31 年 3 月

岩手県遠野市・遠野市教育委員会



遠野市歴史文化基本構想

平成 31 年 3 月
岩手県遠野市・遠野市教育委員会

序

『遠野物語』で全国的に知られている遠野市は、豊かな自然環境と深い信仰、それに関わる郷土芸能や風習、積み重ねた歴史と営みの中で語り継がれた伝説や物語といった、多種多様な文化が残されています。遠野市の誇りとなるこれらの歴史文化は、相互に密接な関連性を持ち一体となって現在に受け継がれ、日本の原風景とも呼べる遠野の景観や風情を表出しています。

遠野市ではこれまでも、歴史文化が後世に伝えていく大切な文化的資産であるとの認識の基、トオノピアプラン等の総合計画において、約半世紀に渡り、文化を活かしたまちづくりを推進してきました。

国では、社会情勢の変化により生じている、指定文化財の保護に関する様々な課題を踏まえ、これまで法的保護の対象となっていなかった未指定文化財や、文化財が置かれている自然環境や景観を含め、文化財の総合的把握に基づく、一体的な保存と活用の方針を定める「歴史文化基本構想」の策定を推進し、構想の具体的計画となる「文化財保存・活用地域計画」に関する法律の整備を行いました。

遠野市が策定する歴史文化基本構想は、この様な文化財行政に関する国の方針を受け、歴史文化基本構想の新たな考え方の基に、これまで遠野市が取り組んできた文化財保護と、文化を活かした関連施策の再確認を踏まえ、遠野の文化的特徴を着実に継承し、その価値を活かした文化都市として発展・創造していくための方針として策定するものです。

最後に、本構想策定にあたり多大なるご尽力を賜りました関係各位の皆様に対して心から感謝いたしますと共に、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

遠野市長 本田敏秋

例 言

- 1 本書は、平成 28 年度から平成 30 年度において、文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）として文化庁から補助金の交付を受け実施した、遠野市歴史文化基本構想策定事業の成果をまとめたものである。
- 2 本事業は、遠野市教育委員会市民センター文化課が事務局となり直営で実施した。本書は、遠野市歴史文化基本構想検討委員会の支援・監修の基、事務局文化課において編集を行った。

第 1 章

歴史文化基本構想の策定

市の概要、位置と地勢、気候、産業、観光交流、歴史の変遷、文化を活かし実施してきた文化的施策展開の概要、独自の文化財保護施策「遠野遺産認定制度」、構想策定の目的、位置づけ、体制と経過。

第 2 章

遠野市の文化的資産

構想策定の基本的要素となる調査記録を整理、指定文化財、未指定文化財について、埋蔵文化財、歴史的建造物、民俗風習、信仰、郷土芸能、遠野遺産、遠野の先人と『遠野物語』の各項目の記述、これらの文化財から抽出された歴史文化の特徴。

第 3 章

文化的資産の保存と活用の方針

市の文化財保存と活用、文化財調査等の取組、現状と課題の整理、構想策定の目的と、現状課題を踏まえた基本方針、必要事項に関する具体的方針。

第 4 章

歴史テーマと関連文化財群

構想のテーマ、歴史の変遷過程を軸として設定した関連文化財群、設定の目的と考え方、第 1 群から第 4 群までのストーリーと構成要素。

第 5 章

歴史文化保存活用区域

歴史文化保存活用区域、設定の目的と地区名、それぞれの地区の構成要素、地区の概要、保存活用の方針、関連計画。

付 編

引用・参考文献、文化財基礎データ一覧。

遠野市歴史文化基本構想目次

序

第1章 歴史文化基本構想の策定

第1節 遠野市の概要	2
第2節 遠野市の歴史の変遷	6
第3節 遠野市における文化的施策展開の概要	10
第4節 歴史文化基本構想策定の目的	22
第5節 遠野市総合計画等における歴史文化基本構想の位置付け	23
第6節 歴史文化基本構想策定の経過と体制	25

第2章 遠野市の文化的資産

第1節 文化的資産把握	28
第2節 指定文化財の概要	30
第3節 文化的資産の概要	42
第4節 遠野遺産	98
第5節 遠野市の歴史文化の特徴	101

第3章 文化的資産の保存と活用の方針

第1節 文化財の保存と活用の変遷	104
第2節 文化財に関する現状と課題	109
第3節 文化的資産の保存と活用の基本方針	116

第4章 歴史テーマと関連文化財群

第1節 歴史テーマと関連文化財群の考え方	124
第2節 関連文化財群の設定	126


第5章 歴史文化保存活用区域

第1節 歴史文化保存活用区域設定の目的	156
第2節 歴史文化保存活用区域の設定	156
第3節 歴史文化保存活用区域における方針の見直しと推進体制	167

引用・参考文献

付編

第1章 歴史文化基本構想の策定



第1節 遠野市の概要

第2節 遠野市の歴史の変遷

第3節 遠野市における文化的施策展開の概要

第4節 歴史文化基本構想策定の目的

第5節 遠野市総合計画等における歴史文化基本構想の位置付け

第6節 歴史文化基本構想策定の経過と体制

第1章 歴史文化基本構想の策定

第1節 遠野市の概要

(1) 遠野市の位置と地勢

遠野市は岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置し、東は釜石市・大槌町、西は花巻市、南は住田町・奥州市、北は宮古市にそれぞれ接し、主要幹線道路などによって結ばれ、内陸と沿岸を結ぶ交通と産業の要所にあります。市域は、東西、南北ともに約38km、総面積は825.97km²で、標高1,917mの早池峰山を最高峰に、標高300m～700mの高原群が周囲を囲み、北上高地最大となる遠野盆地を形成しています。市域の83.1%(面積68,609ha)を森林が占めており、薬師岳に源を発する一級河川猿ヶ石川が中央を貫流し、周囲の山々から流れ出る大小河川がこれに合流しています。

これらの河川や主要道路沿いには耕地と集落が形成され、市域の中央部には城下町から発展した中心市街地も広がっています。このような地理的環境は、さまざまな文化や情報が集積し、遠野独自の文化を形成する要因のひとつとなっています。



図1-1 遠野市の位置



写真1-1 遠野盆地

(2) 遠野市の気候

本市の気候は岩手県内でも寒冷地帯にあたり、盆地地形特有の寒暖の差が激しい気候となっています。平成12年から平成21年までの10年間の年平均気温は9.8℃と低く、この10年間の気温で見ると最高気温は36.5℃、最低気温は-17.8℃で、その寒暖差は54.3℃となっています。雨量は年間を通じて1,000mm前後で比較的少なく、湿度もそれほど高くはありません。このような遠野市の気候は、四季の移り変

わりを鮮明にし、美しい自然景観を見せる一方、冷夏などによって度々の凶作に見舞われ、その中で命をつないでいく心の拠り所として深い信仰心を根付かせ、語り継ぐことの意味を深化することにつながり、信仰や風習、郷土芸能などの様々な文化を生み、育んだ大きな背景となっています。

表1-1 遠野市の気温と降水量

	平成	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	平均
気温 °C	平均	9.4	9.7	10.2	10.0	10.1	10.5	9.8	9.7	9.5	9.3	9.8
	最高	35.1	33.7	36.5	32.3	32.4	35.6	34.1	35.1	32.2	32.9	34.0
	最低	17.5	17.1	9.8	14.9	10.6	14.1	16.0	18.0	19.2	16.4	15.4
年間降水量mm	1055	1057	1358	1138	1054	1288	1172	946	1337	1359	1176	
最深積雪量cm	43	49	50	23	23	28	47	37	30	33	36.3	

(最低はマイナスの数値、降水量小数点以下切捨て、資料：盛岡地方気象台)



写真1-2 猿ヶ石川沿いの桜並木と石碑(春)



写真1-3 荒川高原牧場の馬の放牧(夏)



写真1-4 刈り取った稲のハセがけ(秋)



写真1-5 水田の中に点在する社(冬)

遠野の四季の風景

(3) 遠野市の産業

遠野市の産業の就業者人口は、平成22年の国勢調査で14,080人、平成2年から以降の20年間で約5,000人が減少しています。産業別就業割合では第1次産20.8%、第2次産業が29.5%、第3次産業が49.7%となっており、昭和60年以降から第1次産業が減少しているのに対し、第3次産業は増加している傾向にあります。

しかし、農林畜産は、冷涼な気候と豊かな自然環境を生かした基幹産業で、多くは米を中心に、野菜やホップ、わさびなどの農産物と畜産を組み合わせた複合経営がされており、遠野市の田園風景を形成しています。近年では、農家数の減少や農林業従事者の高齢化、担い手不足などにより、生産基盤である経営耕地面積の減少や耕作放棄地の増加がみられます。また、古くから馬産地としての歴史を有する遠野市では、馬産振興にも力を注いでおり、現在では日本一の乗用馬生産地として知られています。

この様な遠野市の農林畜産業は、美しい景観を形成するだけでなく、国の重要文化的景観に選定された荒川高原牧場や、神社や社が点在する田園風景といった遠野市らしい歴史的景観を形成しています。さらには、馬事文化と南部曲り家、郷土料理などの食文化など様々な文化を育み、今に伝える要因となった産業といえます。しかし、第1次産業の減少や農業従事者の高齢化、担い手不足は、これらの文化の伝承に影響を及ぼします。



写真1-6 遠野市特産
暮坪カブの畑



写真1-7 幕末～明治・大正の
開墾による水田風景



写真1-8 牛の放牧



写真1-9 ソバ畑



写真1-10 ホップ畑

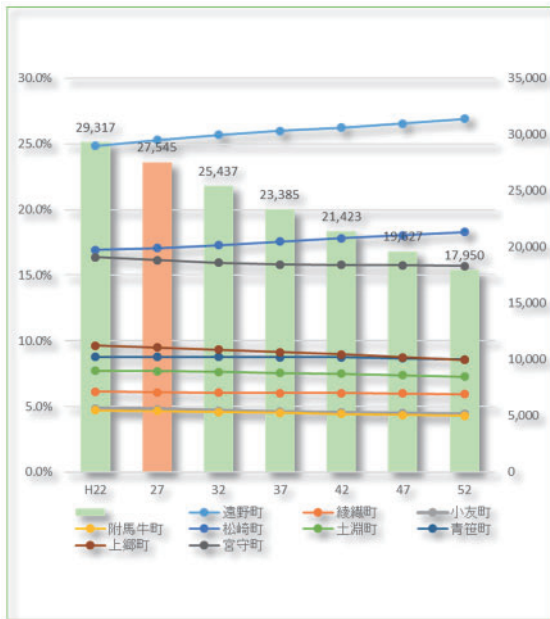


図1-2 遠野市における町別人口推計

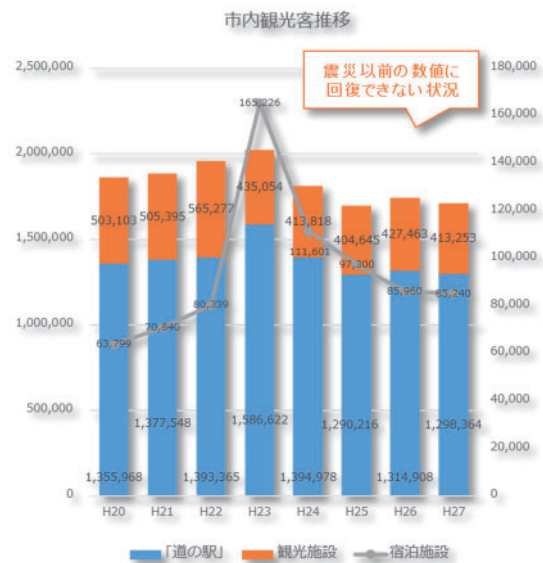


図1-3 遠野市内観光客数の推移

(遠野スタイル2018より)

(4) 観光交流

四季が織り成す豊かで美しい広大な自然は、日本の原風景として全国の多くの人々に親しまれ、遠野市は『遠野物語』に代表される歴史と文化を活かした観光・交流人口の拡大のため、遠野まちおこしセンターを始めさまざまな施設整備や官民関係団体のネットワーク構築に取り組んできました。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は観光客の減少などの影響をもたらしましたが、歴史的交流の絆を培ってきた歴史地理的条件を生かし、官民一体となって取り組んだ後方支援活動は、災害復旧・復興支援における先駆的な取組として「遠野モデル」とも称され、全国、さらには海外からも高い評価と大きな注目を集めました。



写真1-11 後方支援(支援物資の仕分けの様子)



写真1-12 道の駅遠野風の丘

第2節 遠野市の歴史的変遷

〈古代以前〉

遠野盆地を中心とした上閉伊郡西部の山間地帯は、気仙、江刺、稗貫、下閉伊の他郡に通じる交通の要衝になっていました。『遠野物語』には、遠野は太古の昔一円の湖だったという伝説がありますが、人が生活した最も古い時期の痕跡として確認されているのは、今から約8万5千～5万年前と推定される後期旧石器時代を遡る金取遺跡になります。その後、縄文時代の遺跡として権見前遺跡(早期)、国指定史跡綾織新田遺跡(前期)、張山遺跡(中期)、栃洞遺跡(後期)、平倉観音遺跡(晩期～弥生時代前期)などの遺跡調査が行われ、同じ文化を有する他の地域と同様に当時の集落が営まれていたことが明らかとなっています。

〈古代〉

古墳時代に属する明確な集落跡は確認されていませんが、蓬田遺跡の調査が行われ、飛鳥時代の集落跡である事が判明したことから、古墳時代にも集落は存在していたと考えられます。『続日本紀』などによると、遠野は「遠閉伊」と呼ばれていました。高瀬Ⅰ遺跡の調査では、奈良時代に属する、一辺の長さが10mとなる大型の住居跡や古墳の跡が発見され、発達した村の中に豪族が生まれていたものと推定されます。また、粃の圧痕が付いた土器や鉄の斧、蕨手刀が出土したことから、鉄器を使用して稲作が行われていました。

坂上田村麻呂が、胆沢城や志波城を築いて律令政府が陸奥国を統治した平安時代になると、遠野もその体制の中に組み込まれました。それを裏付ける資料として、高瀬Ⅰ遺跡の調査で発見された墨書土器があります。それは公田を賃租してその穂稲の5分の1を徴収したという「地子」の文字が書かれた土器と、氏姓を表した「物部」の文字が書かれた土器で、9世紀代に遠野の在地の有力者が物部という姓を賜り、行政機構の末端として律令制度の中に組み込まれていったと推定されます。

また、遠野市に残るこの頃の伝説として、「遠野来内村の獵師始閣藤蔵(後の普賢坊)初めて早池峰を開き、山上に神社を奉斎す」という早池峰山開山伝説や、「円仁、奥州布教の途次来遠し、早池峰山に妙泉寺を創建し、また一木から七体の観音像を刻み、七か村に安置する。遠野七観音という。」といった伝説があります。資料としては、遠野郷随一の古仏、鞍迫観音堂本尊の十一面観音立像と、同時期の二天立像などがあります。このような平安時代開山とする古い伝説や資料は、支配下となって間もない遠野領地の統治において、仏教の教えを取り入れていたことを推察させる伝説だと言えます。

貞任山には安倍貞任が築いた砦跡があると伝えられていますが、確かな痕跡は確認されていません。前九年・後三年合戦を経て、平安時代後期、平泉文化の頃の資料として、青笹町中沢に軍荼利明王像、菩薩立像、如来形立像などの焼損像群があり、これらには

山岳信仰と深く結びついている像も含まれています。また、上郷町の「風呂家」や「日出神社」、小友町小黒沢の「伊豆権現」には義経北行伝説も残されています。

《中世》

文治5年の奥州合戦後は、源頼朝から遠野保(遠野十二郷)を与えられた阿曾沼氏が統治するようになります。阿曾沼氏は松崎町に横田城を築いて居城とし、遠野の要となる場所に館を築いて重臣を配置し統治しました。附馬牛町にある「荒川駒形神社」は阿曾沼氏が勧請した神社と伝えられており、馬産を振興し馬にまつわるさまざまな文化を形成する礎を築いたとも考えられます。阿曾沼氏は天正年間(1573～1591)に城を現在の鍋倉山に移しましたが、その後間もない慶長5年(1600)、阿曾沼広長が、出羽山形の最上義光の援軍として出陣中、留守役の鱒沢広勝らの裏切りにより、広長は気仙郡の世田米に亡命し、約400年間にわたる阿曾沼氏の支配が終わりました。盛岡南部氏は、横田城に代官を置きましたが、伊達領境の支配は巧くいかなかったため、寛永4年(1627)根城南部氏(のち遠野南部氏)を八戸から遠野へ所替えとしました。

《近世》

これにより江戸時代の遠野を統治する事となった遠野南部氏は、鍋倉城に居館を構え、現市街地の前身となる城下町を整備し、阿曾沼氏と同様に馬産を奨励しました。遠野南部氏は、藩と同じように体制直裁権を持ち、代官不入の地として独自の行政と司法上の格式を有していました。この様な格式の基、遠野1万2千500石の城下は、盛岡から遠野街道、遠野城下から界木・和山峠を経る大槌街道、仙人峠を経る釜石街道、赤羽根峠を経て仙台領高田に抜ける高田街道、小友峠から荷沢峠を経て世田米、五輪峠を経て人首・岩谷堂など、多くの街道・間道がすべて峠越えの道を経て遠野に集積した、内陸と沿岸を結ぶ要衝として、「市の日には馬千匹、人千人」と呼ばれるほど、繁栄しました。

《近現代》

明治2年(1869)遠野は花巻県、江刺県に属し、その後、明治4年(1871)に江刺県を廃して合併した盛岡県(岩手県)に属しました。明治12年(1879)には西閉伊郡役所が設置され、明治22年(1889)、戸籍や小学校の事務を円滑に行うことを目的として全国一律に行われた「明治の大合併」により、遠野が1町7か村、宮守は3村となりました。明治43年(1910)には柳田國男の『遠野物語』が出版され、民俗学誕生の礎となり、その間も、遠野は近代化が進み、大正2年(1913)に遠野水力発電株式会社が営業を開始、大正4年(1915)には岩手軽便鉄道(花巻ー遠野仙人峠間)が開通しました。その後、昭和29年(1954)には人口規模を指標とした「昭和の大合併」により1町7か村が合併し「旧遠野市」が誕生、翌年には宮守3村が合併して「宮守村」が誕生しました。平成に入り、行政サービスの維持と効率化に必要な行政規模の拡大を図る市町村再編成施策「平成の大合併」が行われ、平成17年(2005)に旧遠野市と宮守村が合併し現在の「遠野市」となりました。

表1-2 遠野市の変遷

明治21年以前	明治22年合併 (1889)	昭和29~30年合併 (1954~1955)	平成17年合併 (2005)	
横田村	遠野町	遠野市 昭和29年	遠野市	
新里村 鶉崎村 上綾織村 下綾織村	綾織村			
小友村	小友村			
安居台村 上附馬牛村 下附馬牛村 東禅寺村	附馬牛村			
駒木村 松崎村 光興寺村 白岩村	松崎村			
五日市村 似田貝村 久手村 須崎村 本宿村 片岸村 高室村 土淵村 柏崎村 山口村 枋内村 飯豊村	土淵村			
糠前村 青笹村 中沢村	青笹村			
細越村 佐比内村 板沢村 平倉村 平野原村 来内村	上郷村			
上宮守村 下宮守村	宮守村			宮守村 昭和30年
達曽部村	達曽部村			
上鱒沢村 下鱒沢村	鱒沢村			

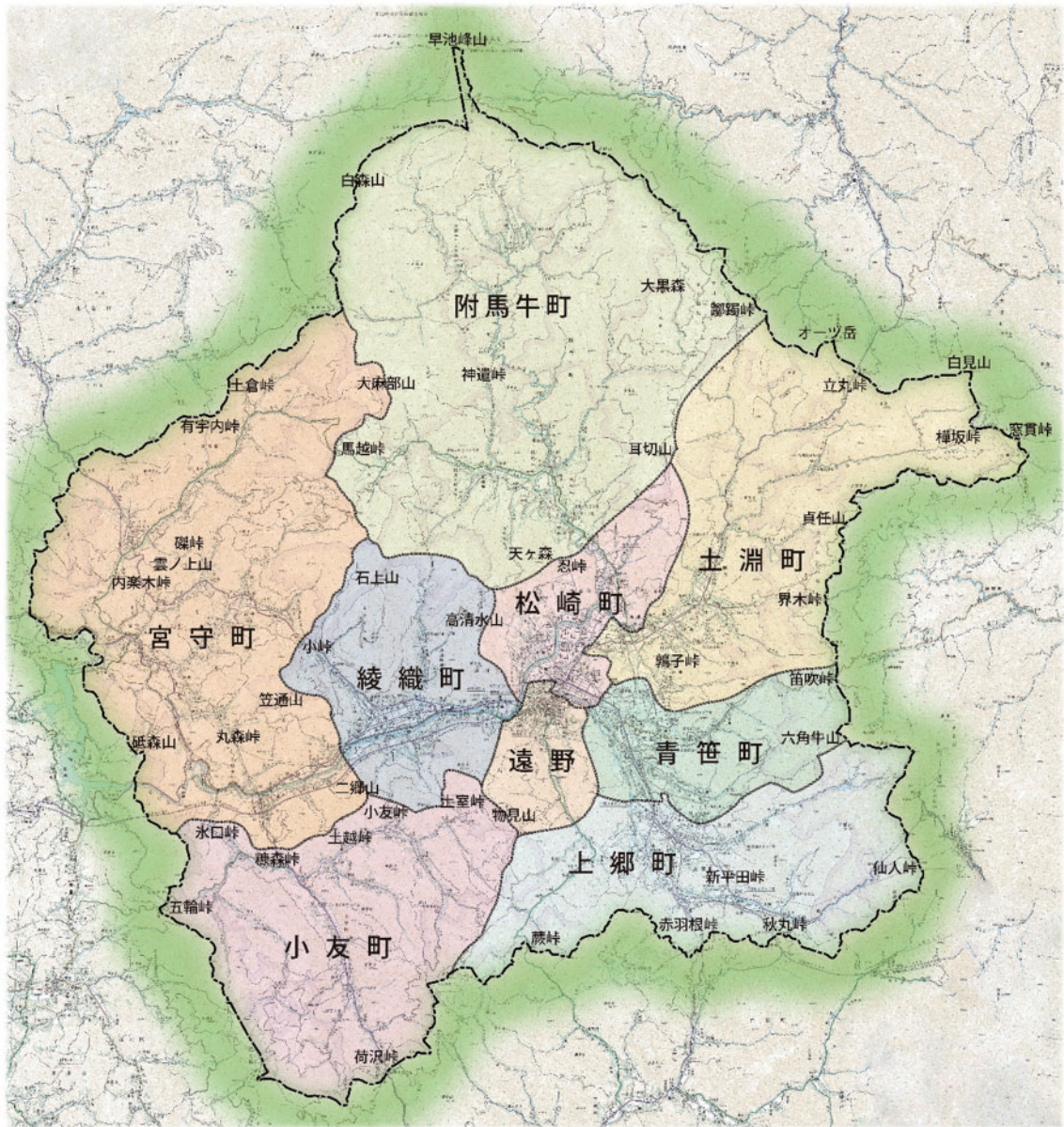


図1-4 遠野市 地域区分図

第3節 遠野市における文化的施策展開の概要

遠野市では、旧遠野市の総合計画等において文化を活かした地域づくりを基本方針のひとつとして掲げ、約半世紀に渡り方針を変えることなく継続して来ました。一貫性をもって実施されて来た市の取り組みは、現在の遠野市の文化的景観形成や交流人口の拡大につながる成果として、遠野市の大きな特徴となっています。

昭和30～40年代に計画された「遠野市建設計画」や「遠野市総合計画」において「市民センター構想」「カントリーパーク構想(総合農村公園)」が定められました。この構想は旧町村単位に社会教育施設を中心とした行政施設を配置し、その中心施設として市民センターを設置するという構想です。合併による地域の衰退に対する行政施策として発案され地域の特性を考慮し、その後の文化的施策展開の原点となりました。この施策は当時、全国的にも例のない市長部局の市民生活に関わる部門と、教育委員会部局の社会教育に関わる部門とが一体となって地域づくりを推進する施策として注目されました。

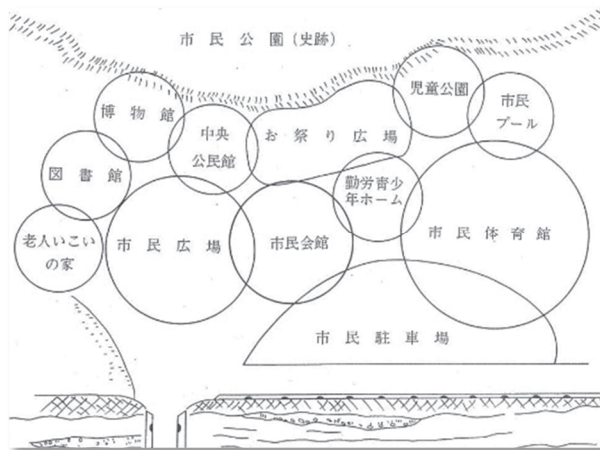


図1-5 市民センター構想イメージ図

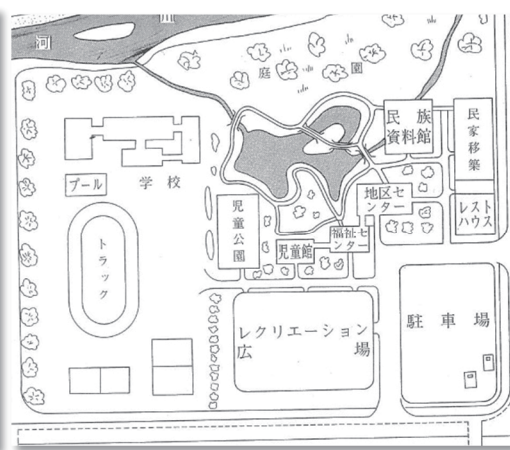


図1-6 カントリーパーク模式図

(『遠野市農村総合整備計画』昭和50年(1975)より)

遠野市はこの構想に基づき、昭和46年には中心施設となる市民センターを開設し、昭和49年には土淵カントリーパーク整備の一環として民俗資料館が建設されました。

このような遠野市の特性を考慮した独自の施策は、昭和50年に策定された「遠野市農村整備総合計画」で目指す理想的遠野市の姿を「トオノピア」と称し「自然と歴史と民俗の博物公園都市」を目指す方針の基に引き継がれました。その後、昭和53年国の重要文化財旧菊池家住宅を、保存と活用を目的に土淵カントリーパーク内に移築しました。この移築は活用を視野に入れた計画として評価されるものと思います。



図1-7 遠野盆地民俗博物館構想イメージ図
 (『遠野市総合計画 基本構想 基本計画』 昭和52年(1977)より)



写真1-13 遠野市民センター



写真1-14 市民の舞台遠野物語ファンタジー

また、完成した市民センターでは昭和51年に「遠野物語ファンタジー」が初演されました。『遠野物語』を題材とし、脚本から演出、舞台音響や舞台製作、役者、舞台演奏など、すべての分野を市民が行う手作りの舞台上、市民舞台の草分けといわれています。現在まで年1回、44年間継続して公演が行われています。

「遠野物語ファンタジー」は、遠野市民の文化芸術に対する意識の高さや、遠野市独自の文化的資源を生かし、継続していく遠野市民の特性を象徴する舞台で、高い評価を受けています。

《遠野市総合計画》

昭和52年、昭和56年、昭和60年、平成3年、平成8年の「遠野市総合計画」まで、一貫して「自然と歴史と民俗の博物公園都市」を目指す方針が継続されます。これらの計画で、昭和55年には図書館と博物館を一体の施設として整備しました。このような一体となった施設も全国的には例がなく、お互いの機能を補完充実することにより市民の文化の向上を目指すことを目的に整備されたものです。博物館は、遠野市の文化財資料の収集と保管、調査及び研究、展示公開による情報発信、講座開催による教育普及など多岐にわたる事業展開の拠点として機能していくこととなります。



写真1-15 遠野市立博物館



写真1-16 たかむろ水光園移築南部曲り家

昭和56年には、水道施設と太陽光発電を利用し、温泉設備を備えた保養施設として「たかむろ水光園」が建設され、その施設のひとつとして古民家を移築活用し、民俗資料の展示を行うなど、行政の他分野と連携した文化財の活用を実施してきました。

昭和59年には、カントリーパークのひとつとしてオープンした「伝承園」は、国指定重要文化財、民俗資料館、工芸館等（複数の未指定移築古民家）を有し、地域住民によるわら細工の実演、絵馬の絵付け体験、語り部の実演、郷土料理の提供が行われ、建造物の活用だけに留まらない民俗文化の継承の一端を担っています。

昭和60年からは、総合計画のサブタイトルとして「トオノピアプラン」の名称を冠するようになりました。この時期には中心市街地の活性化と遠野文化情報発信の充実による観光交流人口の拡大を目的として、旧高善旅館などの旧家を移築し活用した、「とお

の昔話村」を整備しました。都市計画との連携やハードとソフトが一体となった文化財の活用を推進する取り組みとして相乗効果を生んだ試みとなっています。

〈ホープ計画〉

また、市民及び民間と連携した注目すべき取り組みとして、昭和60年に策定した「ホープ計画」があげられます。計画は建築士会と遠野市が共同で「ホープ計画協会」を組織し、地域住民により組織された「もみじ会」と協力して協定を結び実施されました。地域に根ざした城下町らしい景観の創出を目的とし、統一感のある街並みとして大工町通りの整備を行ったものです。歴史的景観に配慮した官民共同のまちづくりは、遠野市が目指す地域づくりの規範であり、市内外から高い評価を受けました。



写真1-17 ホープ計画により伝統的町家のデザインを引用した大工町の街並み

その他文化財に関する市民と遠野市が共同で実施した事業として、市指定文化財早池峯神社の修復事業があります。地域住民と協議を重ね、市の補助金と市民の浄財を募って実施したこの事業は、市民にとって無くすことはできないもの、長い歴史的背景を有する信仰心の篤さを証明しているものといえます。

平成7年に設立した「遠野物語研究所」は、『遠野物語』を中心とする遠野地方の民俗文化の調査・研究と「その成果を市民に発信する場としてのサロン活動」を主たる目的に、市と前進母体となる常民大学を中心とする民間団体の協働事業として開始されました。研究所は『遠野物語』を中心とした調査研究に努め、語り部の育成や遠野学会の開催、各種出版事業などに取り組み、民俗学発祥ゆかりの地としての役割を担い成果を上げました。その後、平成14年には特定非営利活動法人として独立法人格を取得し活動していましたが、時代の変遷による諸課題への対応が困難な状況となり、平成23年からその役割の一部を「遠野文化研究センター」が発展的に引き継いでいます。



写真1-18 遠野物語研究所の開所

平成8年には遠野市内の曲り家を中心とした古民家7棟(現在、内6棟は国の登録有形文化財)を移築し、懐かしい農村景観を再現した体験型観光施設、「遠野ふるさと村」をオープンしました。「遠野ふるさと村」は移築した曲り家を活用し、「まぶりっと(守りっ人)」と呼ばれる地域住民がインストラクターとなって、もちつきやそば打ち、遠野の文化風習を丸ごと体験できる施設です。建造物の保存活用だけではなく、民俗文化の継承や人づくりに貢献する施設として重要な役割を担っています。

平成10年には馬産地遠野の振興と馬事文化継承に資する施設として、「遠野馬の里」を整備しました。「遠野馬の里」では競走馬や乗用馬の育成調教を行っており、神事として行われる「遠野南部流鏑馬」の継承、馬搬や馬耕等の復活と継承を支える柱となっており、日常に馬がいる文化的な風景を創出しています。



写真1-19 遠野ふるさと村



写真1-20 遠野馬の里

平成14年に「城下町資料館」開館、「自然資料館」開館、平成16年には「蔵の道ギャラリー」が開館し、文化財の展示公開施設の拡充を推進しました。

平成19年には遠野市独自の仕組みとして「遠野遺産認定制度」(遠野遺産認定条例、条例第12号、平成20年改正条例第37号、平成23年改正条例第24号)を創設しました。この制度は、市民の価値観を重視し、未指定文化財を含む有形無形の文化的資産を市長が認定し、認定後は市民が主体的に保護を継続していく制度で、遠野らしい文化的景観を将来に残していくために重要な役割を有しています。国が未指定文化財の保存と活用の方針を示す以前から始めた先駆的な取り組みであり、地域づくりの施策としても大きな成果をあげています。

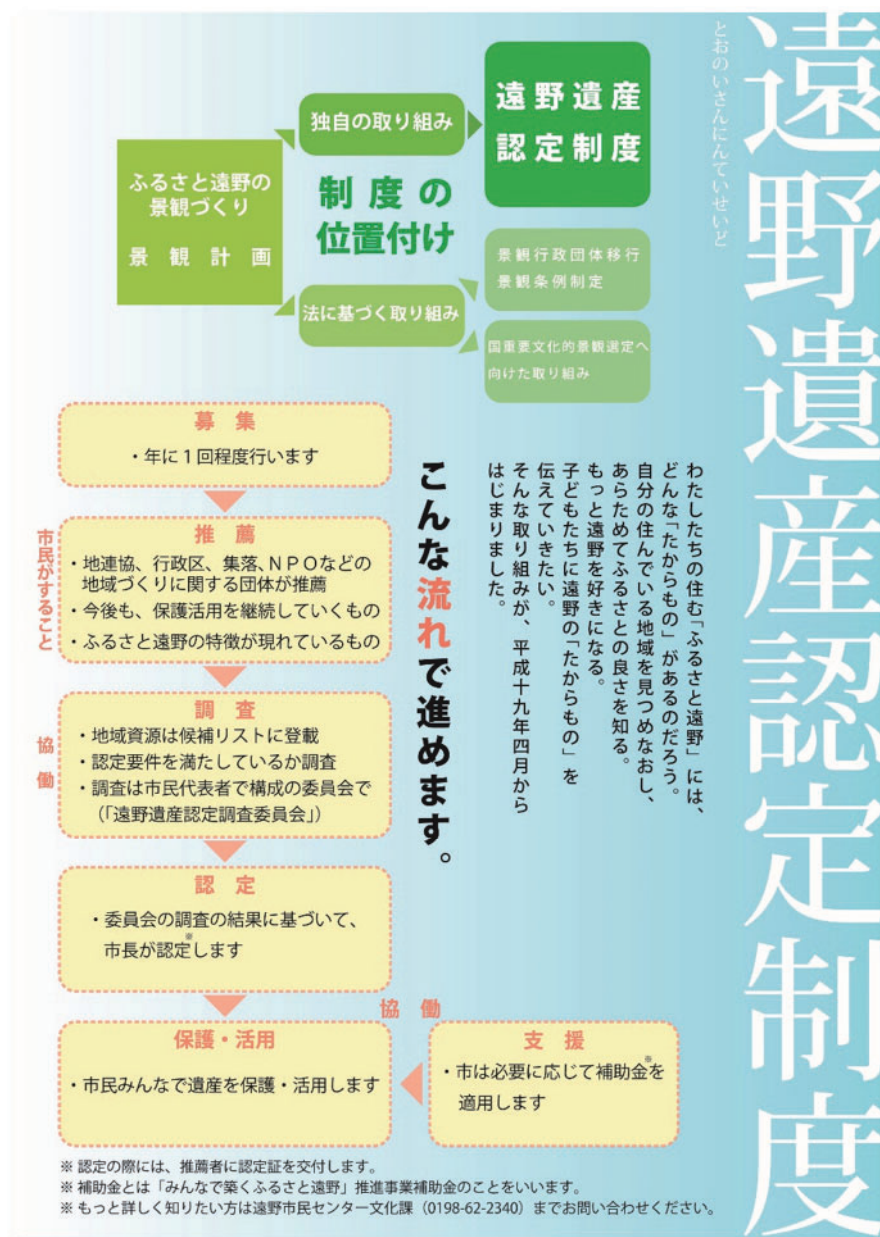


図1-8 遠野遺産認定制度の仕組み

市民の役割

- 1 地域の合意形成を図り、守るべき文化財を推薦
- 2 認定後、地域住民参加により保存活動を継続
- 3 認定後、保存や活用の事業計画を作成
- 4 補助事業申請、住民参加により事業を実施

行政の役割



市民と行政が協働で保存・活用

地区センター

- 1 推薦書作成支援と推薦案件取りまとめ
- 2 遠野遺産認定調査委員会認定支援
- 3 補助事業計画作成支援
- 4 一括交付金の地域調整と補助事業申請支援

文化課

- 1 募集案内、調査票の作成(現地事前調査)
- 2 委員会の開催(年1回)、認定書の交付 (活用事例発表と併せて交付)
- 3 表示板の設置、公式ガイドブック作成による情報発信
- 4 視察、郷土学習などへの対応
- 5 活用事業に関する指導助言

市民協働課

- 1 みんなで築くふるさと遠野推進事業－補助事業の募集案内
- 2 補助金審査委員会の開催と審査、補助金交付決定
- 3 実績報告とりまとめ、実施事業の検証

【遠野遺産認定制度のキーポイント】

- 1 地域づくり団体による推薦⇒地域の**共通した価値観**を元に認定
- 2 認定後保護活用を前提として推薦⇒地域住民による**主体的な保護活用**を担保
- 3 市民の代表者を主とした委員会審査⇒未指定文化財を**遠野の魅力**として認定
- 4 緩やかな認定条件⇒学術的価値より**遠野らしさ**を重視、取組を促進
- 5 地域づくりと連動した支援⇒地域づくり部署と**連携**、未指定文化財を保護

図1-9 遠野遺産認定制度における役割

平成22年に博物館をリニューアル、平成25年には「とおの物語の館」（旧とおの昔話村）をリニューアルすることにより展示公開活用の活性化を図りました。

平成22年に実施した『遠野物語』発刊100周年記念事業を受けて、「百年の縁を100年続く絆に」をテーマとして平成23年に「遠野文化研究センター」を創設しました。遠野文化研究センターは、遠野の文化を多角的に解明するための調査・研究・出版事業と共に、遠野の様々な文化を継承していく人材発掘と育成を目指す、遠野「語り部1000人プロジェクト」に取り組んでいます。また、東日本大震災発災時には文化財レスキューに積極的に取り組み、文化財関係広域ネットワークの構築にも力を発揮しました。

平成27年からは遠野市史編さん事業に着手し、既存資料の整理統合と新たな資料の発掘に取り組んでいるところです。



写真 1-21 語り部 1000 人プロジェクト
歴史語り部研修会



写真 1-22 語り部 1000 人プロジェクト
語り部認定書交付式



写真 1-23 語り部 1000 人プロジェクト
語り部認定委員会



写真 1-24 語り部 1000 人プロジェクト
子供語り部お披露目

設立の背景

遠野文化研究センター設立

これからの100年に向けて

- ・遠野の文化を多角的に解明し、その価値を市民全体で共有して、自信と誇りを持つるまちにす。
- 調査・研究・出版事業、一般の専攻と小さな物産プロジェクト事業など
- ・人が集いにぎわい豊かなまちにす。
- 遠野まつりと芸術祭、文化活動支援事業など
- ・誇りを持って遠野の文化を継承し、市内外や世界に情報発信する。
- 遠野文化館、遠野校史事業など
- ・「遠野物語」発行100周年記念事業で高めた知名度を産業界や交流促進に活用する。
- まちづくりシンクタンク、遠野文化友の会など
- ・遠野温泉歴史制度を推進し元来な地域づくりや特色ある観光に活かす。
- 遠野温泉歴史制度の推進と活用など
- ・こだわりの「雨り飯」など多様な人材を育て、遠野市を牽引する人材力を高める。
- 遠野「雨り飯」1000人プロジェクト事業、遠野文化フォーラム開催など

『遠野物語』発行100周年の遠野

- ・「遠野物語」の価値とその背景となっている遠野の文化の大切さを再認識した。
- ・「遠野物語」発行100周年記念事業の様々な取り組みで、にぎわいが生まれた。
- ・遠野の文化を守り伝えることの大切さを共有した。
- ・「遠野物語」発行100周年記念事業で遠野を更に全国に発信できた。
- ・遠野温泉歴史制度により地域の宝を再認識した。
- ・遠野「雨り飯」1000人プロジェクトで人材を把握できた。

これまでの遠野

- ・博物館の展示や資料収集、文化財の指定等による発展を行ってきた。
- ・イベントや祭などの開催により、にぎわいの創出を促した。
- ・文化を活かした、にぎわいを生み出す環境を整えてきた。
- ・年中行事などの遠野の文化を地域で大切に受け継いできた。
- ・「遠野物語の遠野」として知られていた。
- ・埋もれていた文化資源の発掘のため遠野温泉歴史制度を立ち上げた。
- ・貴重な人材が揃もれていた。

遠野物語100周年
100年続く絆に
百年の縁を
えにし
まげな

遠野文化研究センターを
立ち上げます

遠野市

発行：遠野市文化政策部 〒028-0515 岩手県遠野市文館町3-9 TEL.0194-62-2340 (F0)

図 1-10 遠野文化研究センター設立のパンフレット

表1-3 遠野市総合計画の変遷と主要な文化的施策

総合計画等の名称	基本理念等	主な施策
昭和30～40年代 『遠野市建設計画』『遠野市総合計画』	北上山系中に一大近代的田園都市を建設せんとする	昭和42年 市史編さんに着手 昭和46年 市民センター開設 昭和49年 土淵民俗資料館開設
昭和50年(1975) 『遠野市農村総合整備計画』	北上山系の自然に息吹く永遠の田園都市(トオノピア) 自然と歴史と民俗の博物公園都市	昭和51年 市民の舞台遠野物語ファンタジー初演 昭和53年 国指定重要文化財旧菊池家住宅を土淵カントリーパークに移築
昭和52年(1977) 『遠野市総合計画 基本構想 基本計画』	「大自然に息吹く永遠の田園都市」 自然と歴史と民俗の博物公園都市	昭和55年 図書館博物館開館 昭和56年 たかむろ水光園オープン
昭和56年(1981) 『遠野市総合計画 基本構想 新基本計画』	「大自然に息吹く永遠の田園都市」 自然と歴史と民俗の博物公園都市	昭和57年 伊能嘉矩顕彰碑、佐々木喜善顕彰碑完成 昭和59年 伝承園オープン
昭和60年(1985) 『遠野市総合計画(トオノピアプラン) 基本構想 第3次基本計画』	「大自然に息吹く永遠の田園都市」 自然と歴史と民俗の博物公園都市 創造あふれる知性と香り高い文化都市づくり	昭和61年 とおの昔話村(現とおの物語の館)オープン 昭和62年 ホープ計画(地域住宅計画) 昭和62年 大工町通り一部完成 昭和62年 旧村兵屋敷完成 昭和62年 早池峯神社修復
平成2年(1990) 『宮守村総合発展計画 基本構想 基本計画』	「豊かな暮らしと自然が調和した魅力と活力に富んだ村づくり」	平成3年 銀河の森整備事業着手 平成4年 ふるさと交流体験学習施設完成 平成5年 宮守村ゆう YOU ソフト館開館(図書館)
平成3年(1991) 『遠野市総合計画(トオノピアプラン) 基本構想 第4次基本計画』	「大自然に息吹く永遠の田園都市」 自然と歴史と民俗の博物公園都市 意欲あふれ文化の香り高い都市づくり	平成5年 とおの昔話村に柳田國男隠居所、土蔵移築整備 平成7年 遠野物語研究所設立
平成8年(1996) 『遠野市総合計画(トオノピアプラン) 基本構想 第5次基本計画』	「大自然に息吹く永遠の田園都市」 自然と歴史と民俗の博物公園都市	平成8年 遠野ふるさと村オープン 平成9年 昔話資料館開館 平成9年 遠野さくらまつり開催 平成10年 遠野馬の里オープン 平成12年 遠野どべっこ祭り開催

総合計画等の名称	基本理念等	主な施策
平成12年(2000) 『宮守村総合発展計画 基本計画(後期) 実施計 画(後期)』	「自然と暮らしが豊 かに調和した魅力と 活力に富んだ村づく り」 村の特色を生かした 国際交流と教育・文 化の振興	平成13年 郷土資料館(銀河ステーシ ョン)整備
平成13年(2001) 『遠野市総合計画(遠野 未来デザイン 2010)第3 次基本構想 第6次基本 計画』	「永遠のふるさと」 の想像と継承 「躍動感にあふれ物 語が息づく永遠のふ るさと遠野」	平成14年 城下町資料館開館 平成14年 自然資料館開館 平成16年 蔵の道ギャラリー開館
平成15年(2000) 『宮守村一千年の森一創 り行動計画』	「みやもり一千年の 森一創り」 森と共に生き、ふる さとの文化を大切に する人材の育成	平成17年 みやもりホール整備
平成18年(2006) 『遠野市総合計画 基本 構想 前期基本計画』	「2つの個性が融合 し、躍動する、新し い遠野郷の創造」 ー遠野スタイルの創 造ー「永遠の日本の ふるさと遠野」ふる さとの文化の継承・ 創造	平成19年 遠野遺産認定制度の創設 平成22年 博物館リニューアル 平成22年 『遠野物語』発刊100周 年記念事業
平成22年(2010) 『遠野市総合計画 後期 基本計画』	ー遠野スタイルの創 造ー「永遠の日本の ふるさと遠野」 ふるさとの文化の継 承・創造	平成23年 加守田章二陶房跡整備 平成23年 遠野文化研究センターの 創設 平成23年 遠野「語り部」1000人プ ロジェクト始動 平成25年 物語の館リニューアル
平成27年(2015) 『第2次遠野市総合計画 基本構想 前期基本計 画』	ー遠野スタイルの創 造・発展ー「永遠の 日本のふるさと遠 野」 ふるさとの文化を生 かした地域創造	平成27年 市史編さん事業開始 平成31年 歴史文化基本構想策定

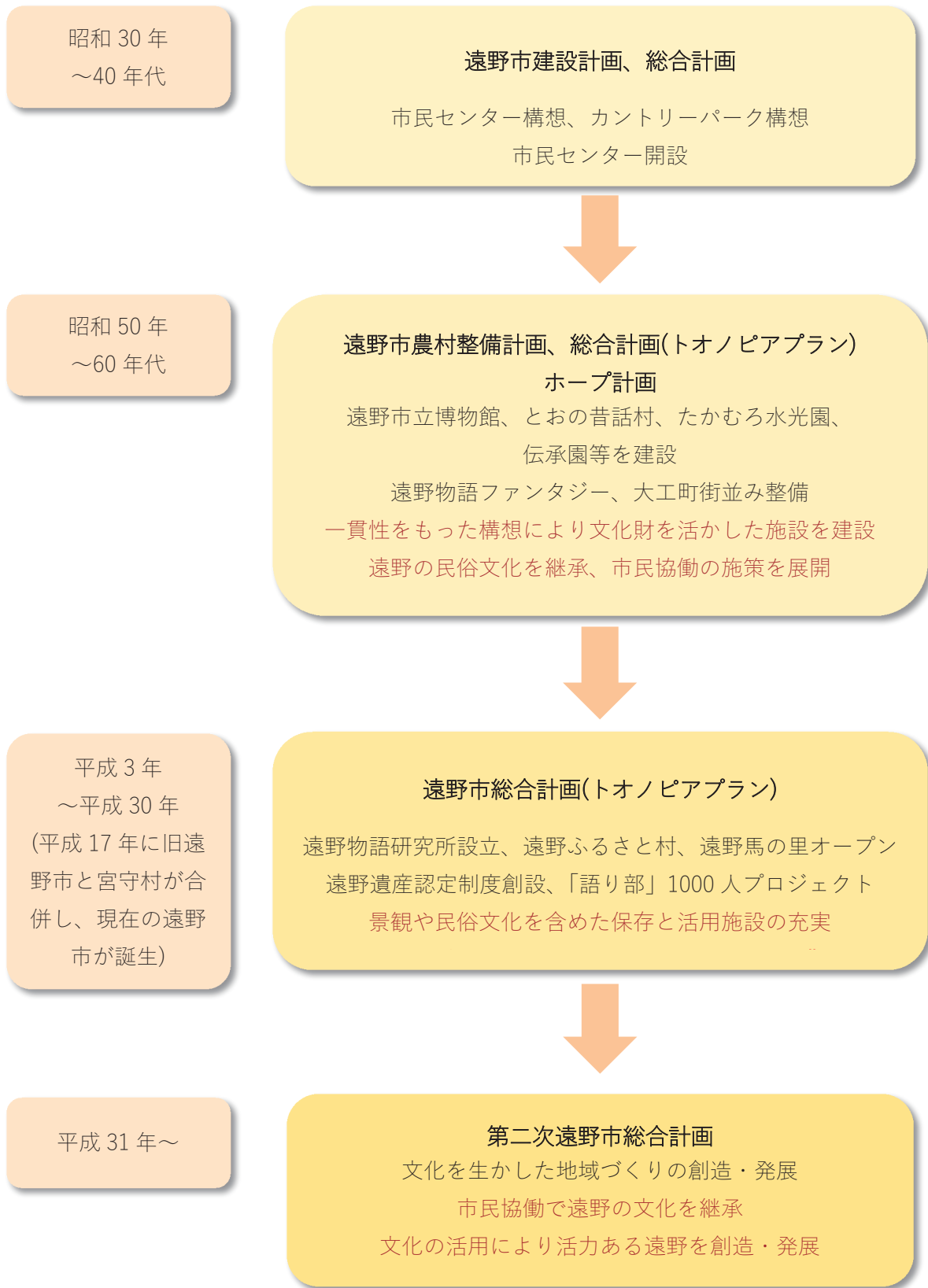


図 1-11 半世紀に渡り継続された遠野市の取り組み

第4節 歴史文化基本構想策定の目的

歴史文化基本構想は、文化庁から平成24年に策定技術指針が示され、平成29年度までに全国で88市町村が策定しています。

また、平成29年12月8日に文化審議会から出された「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用の在り方について第一次答申」で、「歴史文化基本構想を構想だけにとどまらず、地方公共団体の計画的な取組みを「地域計画」として制度化し、国がその計画を認定するなどの一定の関与の下に主体的な取組みを行っていくことが必要である。」との方向性が示され、平成30年に、市町村が策定する「文化財保存活用地域計画」を文化庁長官が認定する制度が閣議決定、文化財保護法の一部改正の中に盛り込まれ平成31年4月から施行予定となっています。

遠野市では、少子高齢化などによって保護の対象となっていない文化的資産を含めた文化財の保護や地域コミュニティの活性化が課題となっており、これに対応するため、歴史文化基本構想を策定する必要性が高まっていました。

遠野市は、前述した国の動向と、遠野市の文化財を取り巻く状況、文化財がもつ郷土愛の醸成と絆の深化という役割を踏まえ、これまで実施してきた施策を充実し、第2次遠野市総合計画における「文化を活かしたまちづくり」を具現化していく文化政策のマスタープランにより、文化財の保護施策を長期的方針の基に推進するため、以下の項目を目的に掲げて歴史文化基本構想を策定することとしました。

1 課題解決の方針

遠野市が抱えている文化財行政における諸課題を踏まえ、その解決のための方針を示す。

2 文化財の総体的視点からの新たな価値付け

重層的に混在する指定・未指定の文化的資産を整理し、文化財群として捉えることにより遠野市の文化的特徴を顕在化し新たな価値付けを行なう。

3 良好な文化的景観形成

総体的文化財として捉えた文化的資産と周辺環境の一体的な保全を図り、文化財行政の方針について共通認識の下に行政や関係団体が連携し、遠野市独特の良好な文化的景観を形成する。

4 文化を生かした地域づくりの継承発展

遠野市におけるこれまでの文化的施策を検証（実施してきた分野と未実施の分野を整理）・成果を評価し、ハード、ソフトの両面において伝統文化を生かした地域づくりを発展継承していくための方針を示す。

図1-12 歴史文化基本構想策定の目的

第5節 遠野市総合計画等における歴史文化基本構想の位置付け

遠野市歴史文化基本構想は、上位計画である「第2次遠野市総合計画」（平成28年（2016）3月策定、計画期間：前期平成28年度～平成32年度、後期平成33年度～平成38年度）が掲げる将来像を目指し、基本理念に沿って定めた大綱を実現していくための、文化財行政の最上位計画に位置付けられるものです。

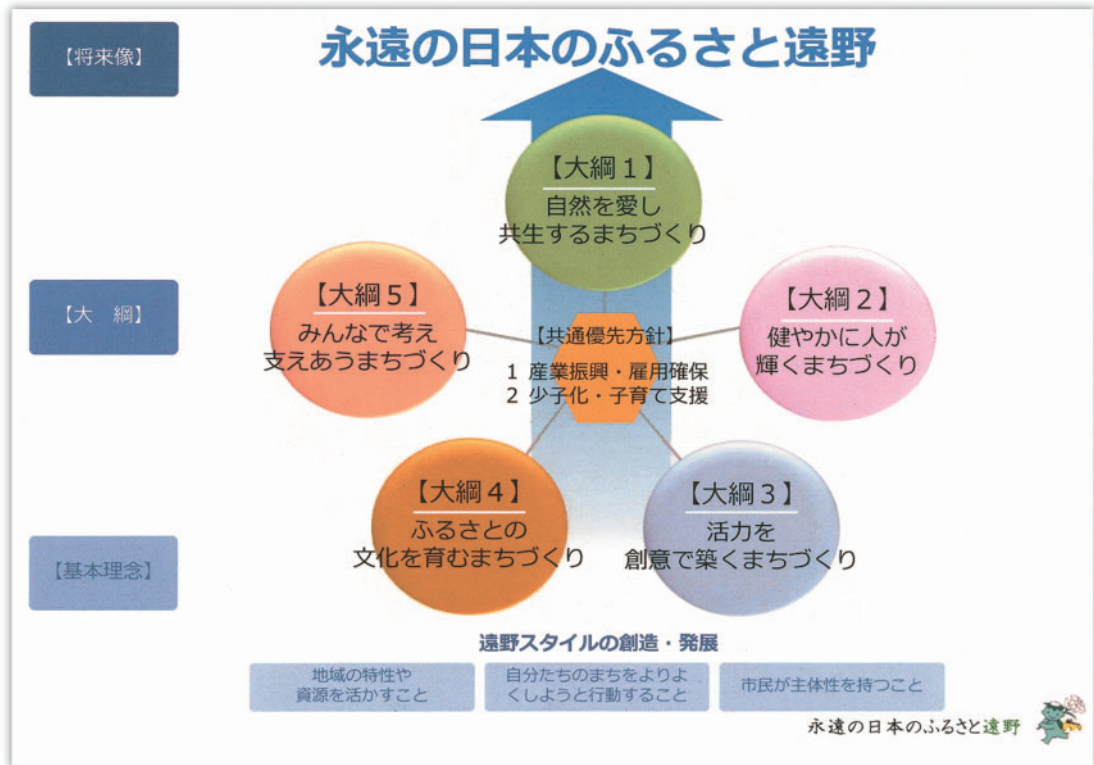


図1-13 第2次遠野市総合計画の大綱

将来像

遠野市が掲げる将来像「永遠の日本のふるさと遠野」は、自然と共生しながら、人々が健やかに輝き、活力にあふれ、ふるさとの文化を育み、市民一人ひとりの郷土への誇りと愛着と熱意によって、みんなで築いていくふるさと像です。

悠久の時を越えて継承してきた遠野らしさを生かし育むとともに、その魅力を積極的に発信することにより、「永遠の日本のふるさと遠野」を創造します。

遠野スタイル

遠野スタイルとは、「地域の特性や資源を活かすこと」「市民が主体性を持つこと」「自分たちのまちをより良くしようと行動すること」を基調に展開するまちづくりであり、同時に、持続可能なまちづくりの仕組みを創造しようとする市民と行政の協働活動による遠野市の地域づくりです。

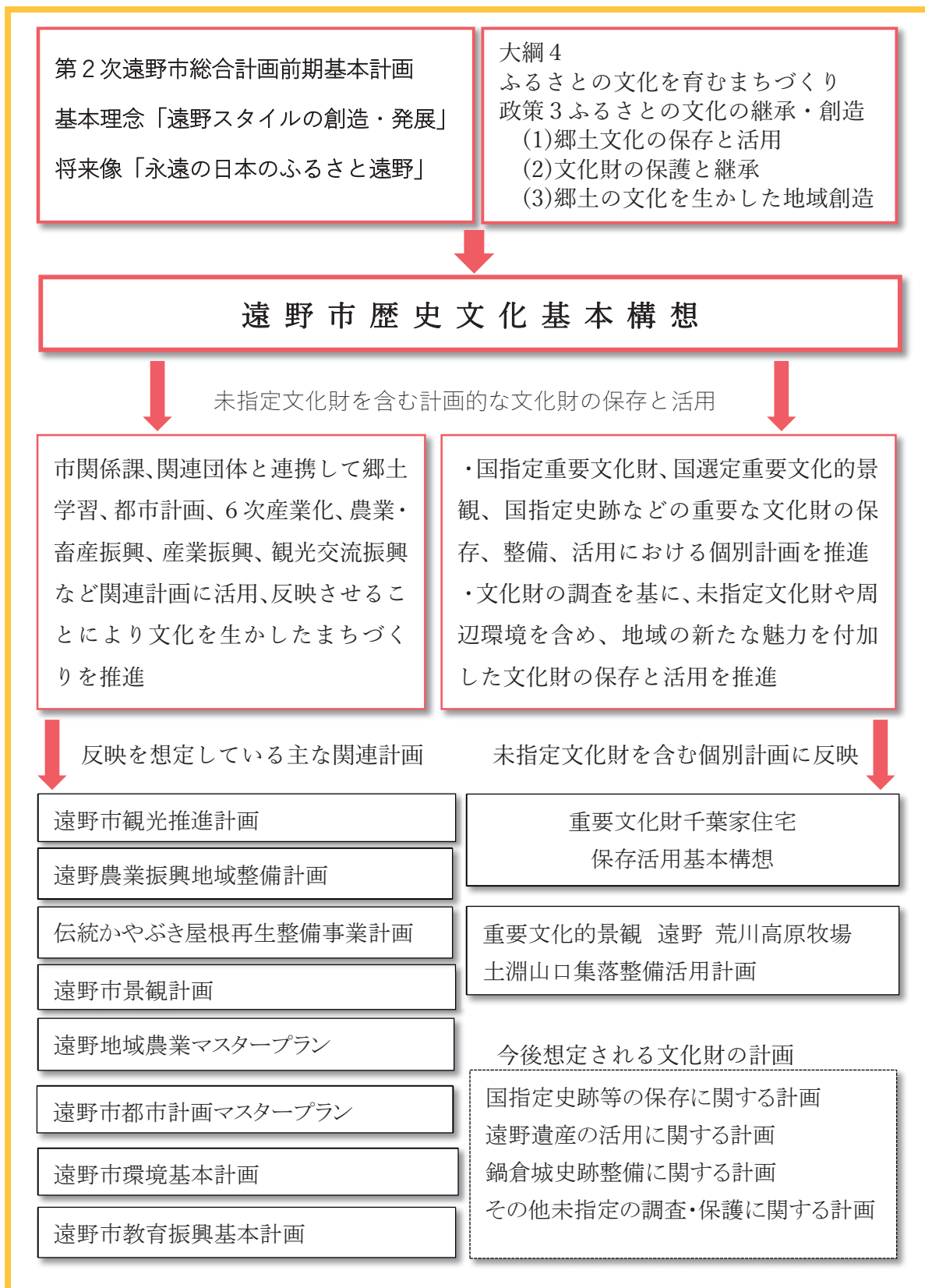


図1-14 歴史文化基本構想の位置付け

第6節 歴史文化基本構想策定の経過と体制

(1) 遠野市歴史文化基本構想策定の体制

遠野市歴史文化基本構想を策定するため、遠野市教育委員会文化課が事務局となり、関連する調査及び整理、資料作成等を行うと共に、学識経験者と遠野市内部関係課で構成する「遠野市歴史文化基本構想検討委員会」を組織。専門的分野に関する検討及び原案作成のため、学識経験者委員によるワーキング会議を設けて検討し、委員会の審議により策定しました。委員会の構成及び事務局体制は以下の通りです。

表1-4 遠野市歴史文化基本構想検討委員会

No.	氏名	職業・役職等	分野
1	岩崎 真幸	みちのく民俗文化財研究所代表	民俗
2	小笠原 晋	遠野市文化財保護審議会委員	歴史
3	熊谷 常正	盛岡大学教授	考古
4	佐々木 博満	遠野市文化財保護審議会会長	建築
5	佐々木 栄洋	遠野市文化財保護審議会委員	景観
6	月館 敏栄	雪国文化研究所代表	建築
7	鈴木 英呂	経営企画部 経営企画部長 平成 27～29 年度	総合計画
	白岩 克己	総務企画部政策担当課長 平成 30 年度	総合計画
8	奥寺 国博	環境整備部 まちづくり推進課長(都市計画課長)	都市計画
9	畑山 透	遠野市教育委員会事務局 参事兼学校総務担当課長	教育基本計画
10	荒井 明広	産業部観光交流課長	観光推進計画

事務局 遠野市民センター文化課

氏名	役職
小向 孝子	遠野文化研究センター部長 平成 27～29 年度
佐々木 修	遠野文化研究センター文化課長 平成 27～29 年度
小向 浩人	遠野市民センター所長 平成 30 年度
宮田 秀一	遠野市民センター文化課長 平成 30 年度
佐藤 浩彦	文化課長補佐兼文化遺産係長
黒田 篤史	文化課文化遺産係主任兼学芸員
佐藤 直紀	文化課文化遺産係主事兼学芸員
菊池 慶子	文化課臨時職員

(2) 遠野市歴史文化基本構想策定の経過

遠野市歴史文化基本構想策定の経過は以下のとおりです。

- 平成 27 年度 「歴史文化基本構想」の策定について、第2次遠野市総合計画に登載
- 平成 28 年 9 月 歴史文化基本構想策定支援事業に関する予算処置
- 平成 28 年 10 月 事業着手、市各種計画情報収集、既存文化財記録情報収集
- 平成 29 年度 既存文化財調査資料整理
- 平成 29 年 9 月 旧市街地歴史的建造物調査
- 平成 29 年 10 月 市内歴史的建造物調査(宮守、小友)
- 平成 30 年 1 月 遠野市歴史文化基本構想検討委員会設置要綱告示
- 平成 30 年 1 月 第1回歴史文化基本構想検討委員会 内容：辞令交付、委員長・副委員長の選任、事業説明、項目案の提示
- 平成 30 年 3 月 第1回ワーキング会議 内容：関連文化財群の設定について検討
- 平成 30 年 6 月 第2回歴史文化基本構想検討委員会 内容：項目修正案提示、街道をキーワードに関連文化財群案の提示
- 平成 30 年 8 月 第2回ワーキング会議 内容：関連文化財群修正案の検討
- 平成 30 年 9 月 第3回歴史文化基本構想検討委員会 内容：関連文化財群修正案の提示、大テーマ案の提示、歴史文化保存活用区域案の提示
- 平成 30 年 11 月 第3回ワーキング会議 内容：第4関連文化財群の名称再検討、歴史文化保存活用区域の検討、大テーマの検討
- 平成 30 年 12 月 第4回歴史文化基本構想検討委員会 内容：関連文化財群修正案の検討、歴史文化保存活用区域の検討
- 平成 31 年 3 月 第5回歴史文化基本構想検討委員会 内容：構想案の決定



写真1-25 委員会の開催状況